

令和6年度 北海道博物館事業経過報告（4～10月）及び計画（11月～R7年3月）

1 資料の収集・保存

- ・資料の収集・整理・保存に関する諸活動を随時実施。
- ・当館資料の利活用申請（資料画像の刊行物等への利用、資料の貸出）に随時対応。

2 展示

・総合展示

文化観光拠点推進事業による総合展示の改修について検討を進め、年度内に展示改修を実施予定（第3テーマ「北海道らしさの秘密」及び第4テーマ「わたしたちの時代へ」）。

定期的に展示資料を入れ替えるクロズアップ展示の更新を計画とおりに実施。

・企画展示

第21回企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱」

令和6年2月10日（土）～4月7日（日） 開館日数51日 観覧者数：7,889人

第22回企画テーマ展「北海道樹木万華鏡 ースキャンアートと標本で見る木々のかたち」

令和6年4月27日（土）～6月23日（日） 開館日数50日 観覧者数：9,243人

第10回特別展「みんなの鉄道 ーがんばれ！地域の公共交通ー」

令和6年7月20日（土）～9月23日（月・祝） 開館日数57日 観覧者数：13,547人

第23回企画テーマ展「北海道のお葬式」

令和6年10月26日（土）（～令和7年1月13日（月・祝））

（第24回企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」 令和7年2月8日（土）～4月6日（日））

3 調査研究

- ・道費による研究プロジェクト、外部資金（日本学術振興会科研費等）による研究プロジェクトを随時実施。
- ・ロイヤル・アルバータ博物館との博物館交流について再開に向けた協議を継続。令和7年5月の道・アルバータ友好45周年記念を契機とした友好館協定の再締結等を見据え、周年事業の事前打ち合わせ等のため道・国際課を中心とする事前訪問団に当館からも学芸職員1名を随行派遣（10月）。
- ・サハリン州郷土博物館との研究交流は再開できる状況にない。

4 北海道開拓の村の整備

- ・開拓の村内の歴史的建造物の維持管理に向けた老朽度調査（2棟）を実施。
（・文化観光事業による展示改修予定）

5 教育普及事業

- ・「ミュージアムカレッジ」等の普及行事を開催。

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ・一般財団法人北海道歴史文化財団が主催する「教員のための博物館の日 in 札幌」（学校教職員等対象の研修会）について、共催者として7月31日（木）に開催（会場：北海道開拓の村・北海道博物館）。

7 施設及び周辺環境の整備

- ・野幌森林公園エリア活性化・拠点化事業として、道環境生活部文化振興課により森林公園内のキッチンカー出店・バーベキューエリア試行（8月）、シェアサイクルの試験導入（8月～10月）を実施。

8 広報

- ・企画展、普及行事等の広報（マスコミに対する投げ込み、ウェブサイト、ポスター・チラシ、X（旧 Twitter）等）及びメディアからの取材に対応。
- ・広報誌『森のちゃれんがニュース』第 36 号・第 37 号、行事案内（10 月～3 月分）の発行。

9 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ・企画展示開催時は来場者に対するアンケートを実施。

10 道民参加の推進

- ・道民参加型学習サークル活動「ちゃれんが古文書クラブ」を予定どおりに実施。
- ・図書室支援員による活動（退職した解説員有志による図書の登録・整理等）を実施。

11 博物館ネットワーク

- ・北海道博物館協会の事務局として、北海道博物館大会を 7 月 11 日～12 日に函館市で開催。また、7 月 10 日には道教育庁と共催で道内博物館・教育委員会の職員を対象にした「博物館職員研修」を開催した。
- ・かるちやる net（文化施設連絡協議会）事業としてパネル展（9 月）、広報チラシ「かるちやる通信」作成・配布（4 月、7 月、10 月）等を実施。

12 情報発信

- ・収蔵資料データベースの資料情報を整理し、当館ウェブサイトで情報を新たに公開。
- ・図書室の運営（企画テーマ展及び特別展関連図書の展示等）を計画どおりに実施。

13 人材育成機能の強化と社会貢献

- ・博物館実習の実施（8 月 20 日（火）～30 日（金）、実習生 16 名）。
- ・職員の委員就任、講師派遣、執筆協力、学校・庁内等からのインターンシップの受け入れ等）を随時実施。

14 研究成果の発信

（・今年度末（3 月）の『北海道博物館研究紀要』第 10 号、『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 10 号刊行に向け準備を進める。）

15 アイヌ民族文化研究センターの事業

- ・アイヌ文化の理解促進・継承に向けた地域支援
第 18 回アイヌ文化巡回展（6 月 12 日～6 月 26 日、広尾町）（共催：広尾町教育委員会）

16 【重点項目】4 つのビジョン

- ・文化観光事業「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」を実施（令和 5 年度～令和 9 年度）
- （・全国樺太連盟からの移譲資料について、『北海道博物館資料目録 第 4 号 全国樺太連盟資料 2』の刊行に向けて準備を進める。）

○文化観光拠点事業

文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）を活用した「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」について、次の各事業を実施する。

デジタル化による利活用を通じた収蔵資料の魅力発信事業【博物館】【北海道立総合博物館全体】
・特に主要な資料や特色のある資料及びそれらに関連する資料について、それらの魅力を深め、伝え、発信するためのデジタルアーカイブ化を進める。
北海道の自然・歴史・文化の魅力を伝える、博物館展示の磨き上げ事業【博物館】
・総合展示第3テーマ「北海道らしさの秘密」における「大正時代の三等客車」、第4テーマ「わたしたちの時代へ」における「アジアの戦争と北海道」と「高度経済成長の時代」の部分的展示改修を行なう。
建物の魅力向上【開拓の村】
・宮城県からの土族移民の農家住宅である「旧岩間家農家住宅」の内部展示について、故郷の建築様式の特徴やそれを知る（見る）ための注目点の解説、土族移民に関することがわかる改修・整備を行なう。
博物館と村の魅力を深めるための、歴史・文化を物語る素材収集事業【博物館】【開拓の村】
・開拓の村の建物や博物館の特色のある文化資源について、理解が深まる古写真や映像、聞き取りなど、建物や文化資源の魅力を深め、理解の促進に繋げる素材を収集。（成果は展示改修や企画展示等に活かす予定）
インバウンドに北海道の魅力を伝えるための展示解説多言語化事業【博物館】【開拓の村】
・インバウンドの関心に訴求できる外国語解説の充実を図るため、ネイティブのライターによる現地取材と学芸員との協議を基本とした協同事業による新たな解説文作成に取り組む。
三次元点群データを活用した村と建物の魅力を深め伝える事業【開拓の村】
・開拓の村歴史的建造物の外観（形状）や建物内部の展示配置に関する3次元の点群データを素材として、モデリングデータを作成し活用を図る。
野幌森林公園の野外展示、アクティビティ整備事業【野幌森林公園全域】
・野幌森林公園内に位置する3つの施設（博物館・開拓の村・ふれあい交流館）間の回遊性を高めて滞在時間の増加や満足度の向上を図るための取組を進める。

○入館者数（令和6年度4～9月）

月	令和6年度			（参考）令和5年度		
	開館日数	総合展示室	特別展示室	開館日数	総合展示室	特別展示室
4月	25日	3,526人	1,872人	26日	3,852人	4,329人
5月	27日	6,037人	4,900人	26日	7,112人	6,011人
6月	26日	5,538人	3,591人	26日	7,172人	—
7月	26日	6,194人	1,872人	27日	9,060人	3,626人
8月	27日	8,488人	6,188人	27日	19,247人	13,920人
9月	25日	11,523人	5,487人	26日	33,588人	24,582人
10月	—	—	—	26日	7,935人	1,345人
11月	—	—	—	26日	3,981人	—
12月	—	—	—	22日	2,157人	—
1月	—	—	—	24日	2,202人	—
2月	—	—	—	25日	2,848人	2,253人
3月	—	—	—	27日	4,782人	4,516人
合計	156日	41,306人	23,910人	307日	103,936人	60,582人

※R6 4/27～6/23 企画テーマ展「北海道樹木万華鏡」

※R5 2/25～5/28 企画テーマ展「もっと！あっちこっち湿地」

R6 7/21～9/23 特別展「みんなの鉄道」

R5 7/22～10/1 特別展「北の縄文世界と国宝」

R6 10/25～R7 1/13 企画テーマ展「北海道のお葬式」

R7 2/8～4/6 企画テーマ展「楽器 見る・知る・考える」

R6 2/10～4/7 企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱」